

施設内研修 介護職員の記録の書き方

社会福祉法人 能登福祉会 あっとほーむ若葉
〒926-0014 石川県七尾市矢田町 22 号七株田 12 番地 5

助成事業の概要

当施設は、特別老後老人ホーム 100 床、併設ショートステイ 20 床、通所介護 2 施設、小規模多機能型 1 施設、在宅介護支援センター 1 施設を運用している施設である。昨今、ケアプランに沿った記録が求められているが、現状は、定められたことを義務的に書いており、振り返ってケアの内容を検討したり、ケアプランに反映されるなど、記録に求められる役割を果たしていない。また、業務に追われ、記録は余分な仕事と考えるスタッフも少なくない。この現状を変え、記録の本来の役割を果たしうる記録に改善するために、施設内研修を行った。

研修は、介護記録の権威である梅沢 佳裕氏を講師として招聘し、2 回のシリーズで集合研修を実施した。初回は、事務職を除く職員全体を対象に、記録の基本についての講演とし、職員の意識改革と、記録について望ましい具体的な記録について知識の向上を図った。

第 2 回は、部署ごとの記録の問題点を事前に検討し、今書いている記録をもとに、グループワーク、講師との質疑応答を行い、改善の目標を明確にした。

また、各部署に介護記録テキストを配布し、学習の成果向上を図った。

開催日：

平成 23 年 6 月 19 日、平成 24 年 2 月 24 日、
2 月 25 日

参加者：128 人

内 容：介護記録の書き方の講演、グループワーク

事業の成果

記録部会を立ち上げ、記録に対する現状や問題点を把握し、さらに各部署へテキスト配布し、事前学習をして、研修に参加した。記録の意味や重要性、基本を理解し、望ましい記録のイメージを描けるようになった。同時に記録部会で、目指す記録についての職員間の統一や、改善する内容・対策（当面できることから）の各部署の進捗状況を報告し、統一した記録改善につなげる作業を行った。

文章の表現や、具体的な書き方については成果はあったが、先生の推奨するエピソード記録や記録の振り返り、ケアプランへの展開につなげるまでにはいかなかった。

そこで、具体的な内容を盛り込んだテキストを各部署に追加配布し、実際の記録をもとに、グループワークを実施した。グループワークの中で、先生から直接指導を受け、第 1 回の講義ではまだあいまいであった部分についても確認できた。

また、記録の課題を部署ごとに明確にし、目標を 3 ヶ月後、6 ヶ月後に設定し、今後改善活動を実施していく。実施については、講師の梅沢先生の指導をいただく予定である。

介護記録は、ケアの内容を問うものである。今後も継続した取り組みをおこない、記録の改善からケアの向上へつなげていきたい。

今後の展開

日社済助成事業への要望

貴重な助成金をいただき、ありがとうございます。
す。

助成金のおかげで、著名な講師の招聘や、参考
図書の整備、現場に即した記録改善の第 1 歩が
踏み出すことができ、納得のいく研修が出来たと
感謝しております。今後も継続して記録改善に取り
組んでいく所存です。

今後も、この助成はぜひ継続して行ってほしい
と思います。